

2019 年度経済学入門 期末テスト正解

問題	正解	問題	正解	問題	正解
設問1	2	設問11	2	設問21	2
設問2	1	設問12	2	設問22	2
設問3	4	設問13	3	設問23	2
設問4	4	設問14	2	設問24	5
設問5	1	設問15	4	設問25	1
設問6	2	設問16	1		
設問7	2	設問17	2		
設問8	1	設問18	1		
設問9	2	設問19	2		
設問10	1	設問20	2		

<解説>

(21) 次の記述のうち、著作権法上の著作物に該当するものはどれか。

- ①スーパーマーケットで自動撮影している防犯カメラの映像
- ②学園祭で配布した自作の小説
- ③頭のなかでふと浮かんだだけのメロディ
- ④歯医者で撮影したレントゲン写真

(ビジネス著作権検定初級、改)

(注) 著作物は「思想または感情の創作的表現」です。頭の中だけで浮かんだ場合は表現にはなりません。

(22) 比較優位について。

問73. 比較優位の理論

自国と外国は、A財とB財を生産している。下表は、両国が2財の生産に要する生産1単位当たりの労働力単位である。両国の比較優位に関する記述として、正しいものはどれか。

	自国	外国
A財	100	200
B財	80	200

- (1) 自国はA財の生産に比較優位をもつ。
- (2) 自国はB財の生産に比較優位をもつ。
- (3) 外国はB財の生産に比較優位をもつ。
- (4) 両国の比較優位性は等しい。

自国では、A財の生産に要する労働力はB財の生産の1.25倍である。外国では、A財の生産に要する労働力はB財の生産の2倍である。

(第27回経済学検定、2014年12月)

(注) 数字が少ないほど、少ない労働力でものを作ることができる。

同一国のなかで少ない労働力で生産できるものが、比較優位を持つ財となる。

自国ではB財。外国では等しいので比較優位を持つ商品はない。

正解は2となる。

(23) 損益計算書中のaに入るものはどれか。ここで、網掛けの部分は表示していない。

損益計算書

単位 億円

売上高	100
売上原価	75
 	25
販売費及び一般管理費	15
 	10
営業外収益	2
営業外費用	5
a	7
特別利益	0
特別損失	1
税引前当期純利益	6
法人税等	2
 	4

- ① 営業利益 ② 経常利益 ③ 当期純利益 ④ 剰余金

(ITパスポート試験 サンプル問題)

□は上から

売上高

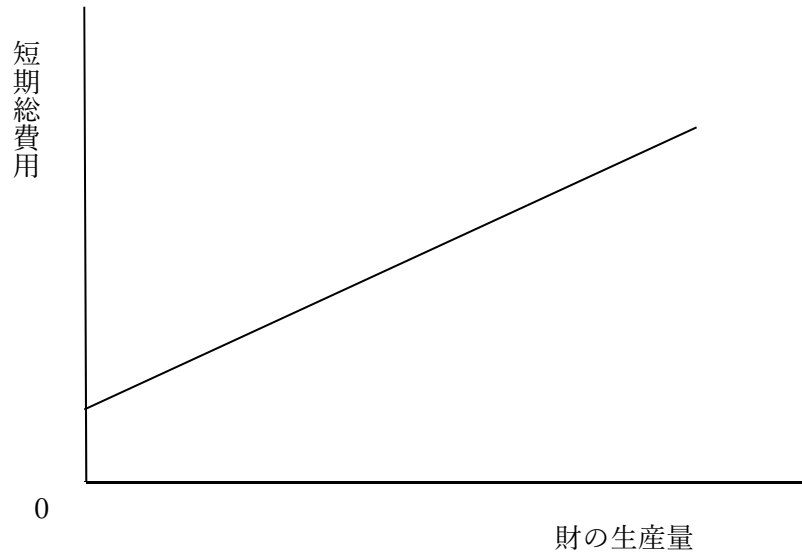
営業利益

経常利益 (a)

当期純利益

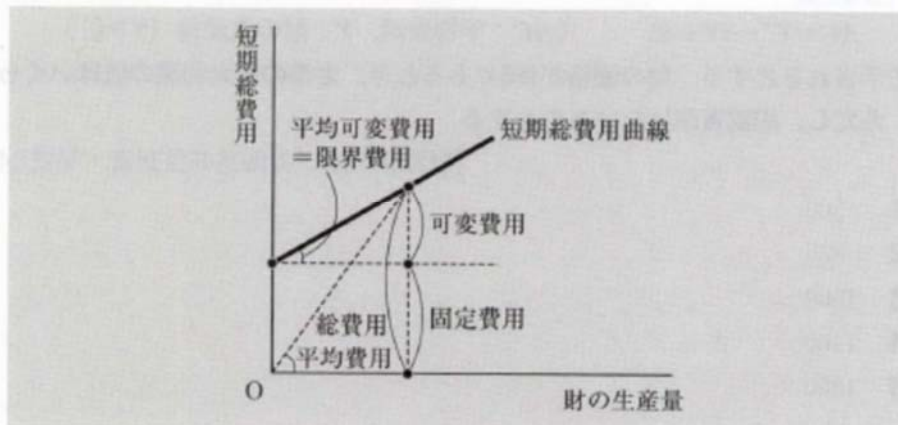
正解は2。

(24) 図はある企業の短期費用曲線を表したものである。この企業は可變的生産要素と固定的生産要素を用いて、ある財を生産している。この図に関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。【国家一般職 平成24年度】



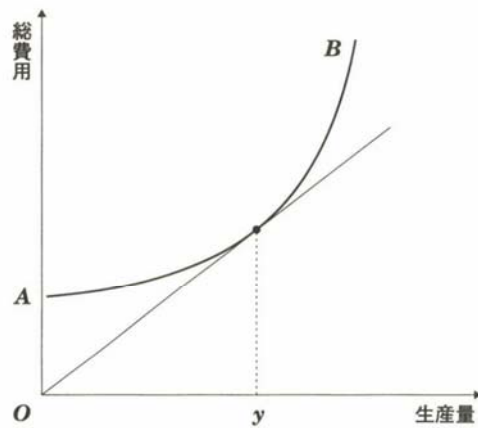
- 1 生産量がゼロのとき、平均費用と平均可變費用はそれぞれ最も小さくなっている。
- 2 生産量が増えるにしたがって、限界費用は逡増し、平均可變費用は逡減している。
- 3 生産量が増えるにしたがって、限界費用は逡減し、平均費用は逡増している。
- 4 生産量の大きさにかかわらず、限界費用は平均費用を上回っている。
- 5 生産量の大きさにかかわらず、限界費用は平均可變費用と等しい。

- 1** × 平均費用は総費用を生産量で割ったものであり、原点Oと短期総費用曲線上の点を結んだ線分の傾きで示される。したがって、短期総費用曲線が設問の図のような直線のときは、横軸の生産量が0のとき最も平均費用が大きく、生産量が増えるにつれ通減する。平均可変費用は生産量に応じて変化する可変費用の部分のみを生産量で割ったものであり、縦軸上の切片と短期総費用曲線上の点を結んだ線分の傾きで示される。短期総費用曲線が直線のとき、縦軸上の切片と短期総費用曲線を結んだ線分の傾きである平均可変費用の大きさは常に一定である。
- 2** × 限界費用は総費用関数を微分したものであり、短期総費用曲線の接線の傾きで示される。短期総費用曲線が直線のとき、その接線の傾きである限界費用は常に一定である。平均可変費用も常に一定である。
- 3** × 限界費用は一定で、平均費用は通減する。
- 4** × 限界費用は短期総費用曲線の接線の傾きであり、短期総費用曲線が直線のとき、限界費用は短期総費用曲線の傾きと一致する。平均費用は原点と短期総費用曲線を結んだ線分の傾きであり、常に限界費用を上回っている。
- 5** ○ 妥当である。短期総費用曲線が設問の図のような直線のとき、その接線の傾きである限界費用は、縦軸の切片から出る線分の傾きである平均可変費用と等しくなる。



(25)

【問題】 下図の曲線 AB は、ある企業の総費用曲線を表している。誤っている記述は次のうちどれか。



- (1) この企業の限界費用曲線はU字型である。
- (2) この企業の平均費用曲線はU字型である。
- (3) 図の OA の大きさは固定費である。
- (4) 生産量が y より大きいなら、限界費用は平均費用より大きくなる。

(ERE 第3回試験)

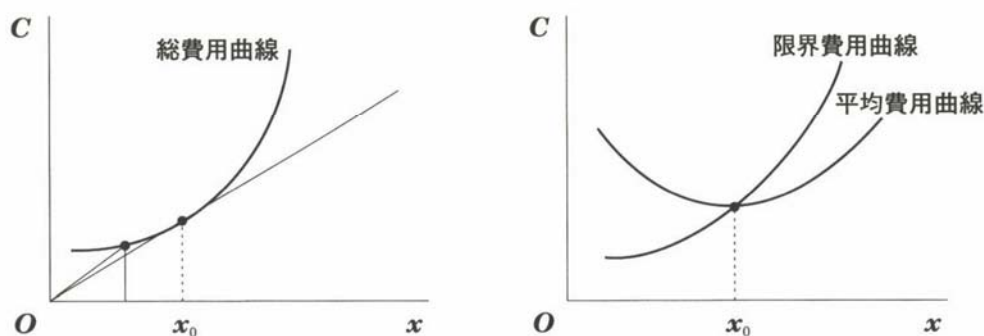
【解答】

正解は(1)。

総費用曲線が下に凸の形で右上がりに描ける場合には、生産量の増加 Δx

に対する総費用の増加の割合である限界費用 $\Delta TC/\Delta x$ は、生産の増加につれて逡増していくことになる。一方、平均費用 TC/x は、生産量で総費用を割った値であるから、図に示されるように総費用曲線と原点とを結ぶ直線がつくる角度（タンジェント θ ）で表される。したがって、生産量 x_0 までは生産の増加にしたがって平均費用は低下していくが、 x_0 の水準で最低になり、それを超えて生産が増加すると逡増し始める。それゆえ、平均費用曲線はU字型となる。また、下図からわかるように、生産量 x_0 では限界費用と平均費用の値は等しくなるが、 x_0 を超えると限界費用の方が平均費用よりも大きくなる。したがって、問題の解答は次のようになる。

総費用曲線と平均費用曲線・限界費用曲線



- (1) 限界費用曲線は右上がりの曲線になる。したがって、(1)は誤り。
- (2) 平均費用曲線はU字型になる。したがって、(2)は正しい。
- (3) 総費用曲線の縦軸切片 OA は、固定費である。したがって(3)は正しい。
- (4) 平均費用が最低となる生産量 y を超えると、限界費用は平均費用より大きくなる。したがって、(4)は正しい。